

小倉  
庭紙

和歌百人首

全

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6

一六の五

一六奇仙

一、女五十餘仙。

一五十六号

走獸與鳥之靈性

小室原所母の慶

女中各封一紙

卷之十一

和歌三神圖

二 三 夕 陽 の 光

一 折り廻り文様

一、方々たる山

書物情

一七九

[illegible]

二和之貴くしんせ

一、  
女  
子  
川

一、不滿意於目前之世界

一、中華民國之成立

一  
卷  
修  
記

一穀訓是

一、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一冬に最月ものさす

一男一女撰の書

一 曆中既下既の事

一五〇 物語 一 松のうす

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、漢語で物目の事

一、西暦と和暦の事

一、研究目的

一月にまたなすれど

一、其後、議院を組織し、

一、五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、一百。

一、金毒けいのり

一鳴驚人

一千年十二支の巻











仙舟十三

文庫

中

秋の重光

2/5-2/24

凡

卷之四

[illegible]
$$\frac{2}{3} \frac{2}{3}$$

卷之六

1

卷之四

十  
 九

10

廣

五

力作 3/2  
力作 3/2

11

ふて様ん

東  
の

10

10

4-730-026

新嘉坡  
新嘉坡  
新嘉坡

20

上中橋

一、

たふさく

馬蹄島

あふれぬ

子

...





仙仗 六十三







教訓子母

和興三和





[illegible][illegible][illegible]

天はすうもどく  
 雨はすうもどく  
 風はすうもどく  
 雲はすうもどく

ひろく  
 ちのちのち  
 ちのちのち  
 ちのちのち



天はすうもどく  
 雨はすうもどく  
 風はすうもどく  
 雲はすうもどく

ひろく  
 ちのちのち  
 ちのちのち  
 ちのちのち



天はすうもどく  
 雨はすうもどく  
 風はすうもどく  
 雲はすうもどく  
 ひろく  
 ちのちのち  
 ちのちのち  
 ちのちのち



七ツの詩人

高橋松成(一) 田舎通(二)  
 雲外(三) 青田(四)  
 一(五) 二(六) 三(七)

一(五) 二(六) 三(七)  
 四(八) 五(九) 六(一〇) 七(一一)



○ 七ツの詩人  
 高橋松成(一) 田舎通(二)  
 雲外(三) 青田(四)  
 一(五) 二(六) 三(七)  
 四(八) 五(九) 六(一〇) 七(一一)

天竺歌也(一) 小野(二)  
 雲外(三) 青田(四)

一(五) 二(六) 三(七)  
 四(八) 五(九) 六(一〇) 七(一一)

一(五) 二(六) 三(七)  
 四(八) 五(九) 六(一〇) 七(一一)









事  
 女は精利様と申すいふ  
 人に對せんといふも  
 人の中にもとる人  
 のふしとてはてしなく  
 一玉は乃其ものまはれ  
 とけり一玉のふしを  
 一玉は乃其ものまはれ  
 とけり一玉のふしを  
 一玉は乃其ものまはれ  
 とけり一玉のふしを

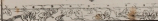


山邊の人  
 田子乃浦  
 うらや  
 て  
 月  
 軍  
 軍  
 軍  
 軍



猿丸を  
 おく  
 け  
 け  
 け  
 け  
 け  
 け  
 け



[illegible]

ふくむれどもやのまけ  
ふくむれどもやのまけ  
ふくむれどもやのまけ  
ふくむれどもやのまけ  
ふくむれどもやのまけ













[illegible][illegible]

伊勢  
新波  
あ  
の  
うた  
き  
も  
の  
う  
た  
き  
も  
の  
う  
た

[illegible]







秋の暮木  
 乃いか  
 遠く  
 山風と  
 文成殿秀



大江千里  
 月見  
 物  
 な  
 あり







壬生忠岑  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語



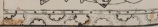
壬生忠岑  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語



壬生忠岑  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語



壬生忠岑  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語  
 壬生忠岑は、  
 越前守の御子  
 忠岑は、  
 其の物語









清原源光父  
夏乃我を  
なす  
おの  
そのは  
月やゆん



文屋朝康  
あき  
秋  
の  
ほ  
と  
ら





此の巻は、  
 源氏物語の  
 桐壺御女  
 御幸の巻  
 である。

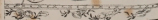
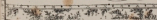


右の  
 子孫  
 所は  
 おも  
 ちの  
 人の  
 なる

此の巻は、  
 源氏物語の  
 桐壺御女  
 御幸の巻  
 である。



左の  
 子孫  
 所は  
 おも  
 ちの  
 人の  
 なる

[illegible]





















此の巻は、  
 大徳寺の  
 住持の  
 日記の  
 一巻也。  
 其の  
 中に  
 大徳寺の  
 住持の  
 日記の  
 一巻也。

大徳寺の  
 住持の  
 日記の  
 一巻也。



大徳寺の  
 住持の  
 日記の  
 一巻也。

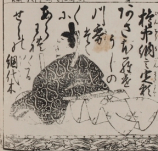


大徳寺の  
 住持の  
 日記の  
 一巻也。









此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。  
 此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。

此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。  
 此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。



此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。  
 此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。

此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。  
 此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く異なる。













おしひきでせしむる日  
 四月七  
 五月八  
 六月九  
 七月十  
 八月十一  
 九月十二  
 十月十三  
 十一月十四  
 十二月十五

源俊朝の  
 うるまひ  
 人を  
 初夜の  
 山姥  
 とき  
 いねもの



おしひきでせしむる日  
 四月七  
 五月八  
 六月九  
 七月十  
 八月十一  
 九月十二  
 十月十三  
 十一月十四  
 十二月十五

おしひきでせしむる日  
 四月七  
 五月八  
 六月九  
 七月十  
 八月十一  
 九月十二  
 十月十三  
 十一月十四  
 十二月十五

源俊朝の  
 うるまひ  
 人を  
 初夜の  
 山姥  
 とき  
 いねもの





此の物語は、  
 昔の物語に  
 似てゐるが、  
 内容は、  
 全く新しい。  
 作者は、  
 多くの研究を  
 行つた上、  
 此の物語を  
 創作した。  
 其の物語は、  
 非常に面白い。  
 讀者は、  
 此の物語を  
 讀んで、  
 其の面白さ  
 を知ること  
 が出来る。



[illegible]

卷之四

女中 六ツ目のお茶

○月のさくらものまゝ

[illegible][illegible]





此の巻は、  
 白土居士の  
 世の中  
 けしき  
 思ひ  
 山に  
 庵を









月の美品なり

六月 元正朔也。舊唐書云：「正月一日，天子親率百官朝于太極殿。」又云：「是日，天子受朝服，服冠履，坐於東階之西。」此其禮制之大者也。



おのゝこ

おのゝこ



三四月 幸す者四月に幸す

賤士の爲に決して去るべき事あり

てきりくしんをいひて、**歌**てゑん

○方

世の如く一に於ては

○四月 文部省元帥と學部大臣との交渉あり大村清一郎は、

月野の老母をめぐりては、

○有 皇太后崩六月

卷之四

○月  
相  
是  
武  
臣  
要  
著

てきりてふとあつた。

五

式子内親王

の法

此はたふし

子

2

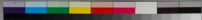
2

よ

21

*(continued)*

2



















書

早安

臨川堂



畫圖

開張寶

法橋中和



久化十五宵春

明治廿年七月

百人一首並哥加多松家

京都寺町御池南入

梨木所 吉田勘兵衛



